

新郎ツヨシ メスだった

11/27 A

札幌の動物園、「縁組み」ミス 別の1頭も

札幌市の円山動物園がホッキョクグマ2頭を繁殖目的で北海道内の別の動物園に移したところ、本当はメスだったことがわかった。生後間もなく行った目視や触診の検査で間違っていたという。「パートナー」と仲良くしているホッキョクグマもいるが、繁殖にはつながらない。そのまま居させるか、お里に戻すか、関係者は思案中だ。

2頭は釧路市動物園のツヨシ(4歳)とおびひろ動物園(帯広市)のピリカ(2歳)。ツヨシは05年1月、メスのクルミ(11歳)の相手として「婿入り」し、今年6月に同居を始めた。よくじゃれ合うものの

ラブラブの妻→単なる仲良し

「雄雌というより仲のいい行動」のため、改めてDNA鑑定などを実施したところメスとわかった。ピリカはまだパートナー待ちの状態だが、触診の結果、やはりメスであることがわかったという。

円山動物園によると、生後約3カ月ごろの性別検査で、メスなら肛門近くにあるはずの尿道口が見当たらなかったためオスと推定した。ホッキョクグマは形状で性別を判断しにくいという。「生後のお披露目の際、性別も知らせねばと早くに判定した。これからはDNA鑑定などで確実に見定めたい」と話す。(戸谷明裕・三木一哉)



上 ツヨシ 釧路市動物園
提供 下 おびひろ動物園の
ピリカ